

木更津市民ネットワーク 市議会議員

6月議会

田中のりこの議会速報



◆発行／きさらづ市民ネットワーク ◆木更津市真舟 4-19-24 TEL & FAX 36-0677

◆発行日／2012年6月29日 ◆田中のりこHP／

田中のりこ市民ネット

検索

新築か移転か 木更津市庁舎検討整備委員会設置

昭和47年に建てた現市庁舎は耐震診断の結果、補強には莫大な投資が必要であり、移転か建築を考える「木更津市庁舎検討整備委員会」の設置となった。任期は2年間。庁舎整備基本構想及び基本方針の策定について、市長に答申し、または建議する委員会。メンバーは10人以内で学識経験者(建築や都市政策など)、自治会など関係団体の代表や、市民から公募とする。木更津市の土地勘のある学識経験者が良いという意見も出され、考慮することとなった。これとは別に、市議会でも特別委員会を議員全員で発足することになった。いずれにせよ、H29年度新庁舎供用開始をめざし、それぞれの立場からより良い庁舎にするため、話し合いをしていくことが必要。

障がいや発達で気になる子どもの、就学前の子育て支援

施設・(市内在住園児数)		待機児童
きみつあゆみ園(11人)	医療型児童発達支援センター	0人
きみつ愛児園(18人)	児童発達支援センター	3~4人
のぞみ牧場学園(11人)		12~13人
幼稚園・保育園		

- 待機児童が入園するまでの過ごし方は？
- 市 障害児等療育支援事業や幼児言語教室、つくしんぼ教室及び児童発達支援事業等を組み合わせている。
- 幼稚園、保育園の年長児(約1100人以上)を毎年4~6月上旬に言語検査を実施。結果幼児言語教室への通級をすすめたい子どもの人数は？
- 市 昨年度の結果では、構音障害、吃音、難聴、さらには言語発達の遅れ等456人。内131人が通級。その他直接申込で4歳児以下67人も通級。場合により3~4ヶ月待ちもある。

- 言葉の習得のために、望ましい回数？
- 市 週1回。現状では場所や、指導員の確保が難しい。
- 就学指導委員会は、どんなことをするのか？
- 市 年度初めに保護者の了解を得て学校や幼稚園、保育園からの情報提供、専門調査員による心理検査、精神科医の診断・教育相談等総合的に就学先を検討。
- 就学指導委員会から通知があり、保護者が最終的にどこに通うかを決めるまでの相談体制は？
- 市 学校見学や体験、就学先校長との面談、個別で関わるメリット等具体的に伝え、保護者が決めるにあたり、丁寧なフォローをしている。96%は同委員会の通知を承諾してもらっている。

ライフサポートファイル

「クローバー」とは？

障がいがあり、支援を必要とする子どもとその家族が、成長に応じた適切な支援を継続的に受けられるように家族が子どもの記録をつづるファイル。



- 今後、「クローバー」を持っている就学前児童の保護者から提示してもらい、就学指導委員会に役立てることは？
- 市 可能。より多くの情報から検討するために、提供してもらうことが望ましい。
- あゆみ園・愛児園・のぞみ牧場学園の在園児で、障害児等療育支援事業(※)を利用している人数は？
- 市 市内在住園児40人中10人。
- きみつあゆみ園の存続は難しいと聞いた。医療行為が必要な子どもたちの療育の場を維持する努力が必要では？
- 市 君津郡市広域市町村圏事務組合の社会福祉対策委員会で検討をしていく。



就学前の障がい児が予約して定期的に通う施設

事業名称	事業内容	場所
木更津市障害児等療育支援事業	療育相談、言語・心理・運動訓練	市民総合福祉会館1階
まなび支援センター幼児言語教室	言語指導、発達相談	市民総合福祉会館2階
つくしんぼ教室	親子による集団活動	きみつ愛児園内(君津市)
こども館ゆめのたまご	児童発達支援	木更津市太田
のぞみサポートセンター木更津	放課後等デイサービス	のぞみ牧場学園(木更津市真里谷)

6月議会を終えて

H24年度補正予算 歳入・歳出に 1億5973万9千円追加

国や県からの交付金や補助金、市の負担金額の決定に伴い、歳入・歳出の補正がされた。

◆児童手当支給事業の財源は1,432,080千円

内訳は、国(1/2)、県と市(各1/4)

◆児童虐待防止対策緊急強化事業補助金で、児童相談の管理を効率よく行えるように環境整備を行う。

◆安心こども基金事業補助金で、生涯の健康管理できるシステムを5年間のリース契約を変更し、購入することにした。補助金はリースから購入への変更の差額にあてる。



「がんばろう!千葉」市町村復興基金交付金 木更津市には1600万円

木更津市の補正予算に、1600万円。その使い道は、

★災害対策…津波ハザードマップ作成

★観光振興/コミュニティの活性化…安全・安心な観光情報推進事業

★一次産業の活性化…漁業施設用地等利用計画変更事業
農水産物ブランド化事業

木更津市よりも、被災してもっと困っているところがあるのでは?と思い、調べてみた。

国が、東日本大震災の被災県の復興支援にと千葉県には30億円を配分した。被災県ごとに、配分の方法が違うが、千葉県では、「がんばろう!千葉」市町村復興支援基金に入れ、24年度に20億円、25年度に10億円を県内54市町村に、交付金として配分した。人口や被災状況を考え、旭市に1億7600万円、浦安市に1億6900万円、木更津市には1600万円となった。被災しているところには、手厚く配分されているが、まだまだ足りない金額だ。

木更津市では、使い道をどのように決めたのか、担当者から説明を受けた。国が昨年末決め、1月に県から各市町村に説明会があった。



あとがき

今議会で、請西保育園及び子育て支援センター新築工事の工事請負契約の締結が議案にあり、可決された。教育民生常任委員会協議会では、近隣説明会の結果報告もあった。議会の多数決で建設することに決まったのだから、私は早く開園することを願う。しかし、説明会の時期や対象者など不備な点多々あり、納得いかない地域

ハード面ではなくソフト面の支援で事業例は4つ

- ①生活再建の支援、医療体制・生活相談体制の整備、被災者の心のケア及び防災力の向上など住民生活の安定に関する事業
- ②被災地域のコミュニティ機能の維持及び再生など地域コミュニティ再生に関する事業
- ③消費者に対する情報提供、観光におけるPR活動及び被災者の就労支援など地域経済の振興並びに雇用維持に関する事業
- ④被災地域の伝統芸能の復興支援活動など文化・芸術の復興に関する事業

木更津市では、これを受け2~3月に関連部署に聞き取り、その中から左記の★印3事業に決め、5月初めに県に申請したという。

さて、千葉県の要綱は、5/28に公表されたが、そこには、4事業例の他に、5つめの事業例が記載されていた。
⑤その他震災からの復興に資する事業

その理由を県に聞くと「①~④までは国の案、⑤は千葉独自であり、市町村の事業選択の幅や裁量を広くした。風評被害への対応、日常の防災力強化、新規事業でなくても震災後の状況変化を踏まえた内容であればOK。放射能対策についても、東電や国の対応が遅いことからすべてが対象外ではない」との見解だった。

市町村で決めたあとに、これも使えるよと県が示しても使えるわけがない。後手後手だ。

市町村によっては、基金で積み立て、来年度に持ち越しとした。また、一般財源で当初から計画していた事業をスライドさせて使うなどいろいろ。

木更津市では、関係部署からの要望も多く、今年度の事業として使うことを選んだという。

県が開催した1月の市町村への説明会で、県独自の⑤の提示があれば、各市町村でも事業の選択の幅が増え、もっと生きた事業になったのではないかと。

県が遅いのか。国が遅いのか…。

住民もいて、その気持ちも理解できる。これから保育士、子どもたち、住民はそこで過ごすのだから、穏やかな笑顔は多いほうがいい。子どもにとっても、大人にとっても。今まで足りなかった住民との対話を丁寧に続け、不安・不満を軽減してこそ、地域の公共施設として慕われるのではないだろうか。行政はその努力を続けてほしいと願う(のりこ)